

高木四郎著作文献目録

古殿 真大

本文献目録は高木四郎の著作を収集し年代順に配列したものである。高木四郎は日本にアメリカの力動精神医学の考え方を持ち込んだ精神医学者の一人であり、日本における児童精神医学の先駆者だといえる。教育との関わりで言えば、日本ではじめて作成された「教育上特別な取扱を要する児童生徒の判別基準」の「性格異常」の項目を作成したり児童精神医学会の設立に関与し初代学会長に就任したりしており、精神医学およびそれを中心とする精神衛生の観点から日本の教育の発展に貢献した人物である。

それにもかかわらず、高木の著作を一覧できるものは管見の限りないため目録を作成した。媒体を限定せず可能な限り網羅的に収集することに努めたが、高木四郎の業績は研究論文に限らず幅広くすべてを目にするのは難しいため、少なからぬ遺漏があると考えられる。また、国立精神衛生研究所が発行していた『精神衛生資料』にも高木は寄稿しているが、論文のようなまとまった単位ではなく項目単位での記述がなされたものが多い。これをひとつひとつ挙げていくと膨大な数になってしまうため、目録に含めると利用者にとって不便であると考え、『精神衛生資料』に関してはこれを含めなかった。ただし、高木が編集委員を務め各国の精神衛生を特集した第7号（1959年）や、高木が司会を務めた精神衛生ゼミナールの記録が収録された第9号（1961年）など興味深い資料が含まれていることは付言しておきたい。

凡例

文献は出版年ごとにまとめた。記載法は以下の通りとし、旧字体は新字体に改めた。また、ページ数が飛んでいる場合はクォーテーションマークでページ数をまとめた（例：“625-630, 637”）

○書籍

『表題』出版社.

○雑誌記事・論文

（単著の場合）

「論題」『雑誌名』巻（号），ページ数.

（共著の場合）

著者1・著者2……「論題」『雑誌名』巻（号），ページ数.

○その他

その他のものについては角括弧を付して注記した。（例：[書評]）

記載法については雑誌記事・論文に則っている。

1925 年

「諸種薬品ノ局所麻醉作用ニ就テ（第一報告）」『日本薬物学雑誌』 1, 324-340.

1926 年

「心臓房室間相互ニ於テ興奮ノ両義伝導ハ成立スルカ」『日本薬物学雑誌』 3(1), 158-165.

「諸種薬品ノ局所麻醉作用ニ就テ（第二報告）」『日本外科宝函』 3(5), 935-956.

1927 年

「『クロラル』心臓ニ於ケル電気刺激実験並ニ『ストロファンチン』ノ心臓刺激伝導路ニ対スル作用ノ研究」『日本薬物学雑誌』 4(3), 425-434.

1930 年

「甲状腺化骨性纖維腫ノ一例」『日本外科宝函』 7(appendix), 621-623.

1937 年

「酒精の精神に及ぼす影響の実験 I. : えるごくらふ作業に及ぼす酒精の影響に就て」『民族衛生』 7(4), 227-244,

「躁鬱病遺伝研究の軌近の趨勢」『民族衛生』 7(2), 98-109.

1940 年

「脳下垂体間脳系疾患に於ける精神障礙」『精神神経学雑誌』 167-193.

1941 年

「髄験医学蟲垂炎の体験に就て」『日本医事新報』 959, 37.

「逆行性健忘の心理学的構造に就いて」『精神神経学雑誌』 45(11), 599-627.

1944 年

「症候性精神病の発呈と病像構成に就いて」『精神神経学雑誌』 48(1), 35-66.

1950 年

「国府台精神衛生センターの計画実践」『児童心理と精神衛生』 1(2), “99-101, 98”.

「精神衛生の沿革と事業」特殊教育研究連盟（国立教育研究所内）代表者三木安正編『精神遅滞児教育の研究』 牧書店, 13-40.

1951 年

『学校精神衛生』 明治図書出版.

「突飛な行動と性的ないたずら：事例研究その一」『児童心理と精神衛生』 1(4), 240-244.

- 「口をきかない子供：事例研究その二」『児童心理と精神衛生』1(5), 332-342.
「指をしやぶる習癖：事例研究その三」『児童心理と精神衛生』1(6), 420-422.
「無断欠席と抜け遊び：事例研究その四」『児童心理と精神衛生』2(1), 42-46.
「テンカン児のいろいろ：事例研究その五」『児童心理と精神衛生』2(2), 135-139.
「脳の駆梅療法」『診療室』3(10), 408-412.
「児童期の梅毒性精神病：事例研究その六」『児童心理と精神衛生』2(3), 233-237.
「精神遅滞児の診断と医療」三木安正・高木四郎・外林大作・杉田裕『精神遅滞児の原因と鑑別』
牧書店, 17-82.
「小学校における精神衛生上の問題について」『学校保健の研究』2, 20-32.

1952年

- 高木四郎（著者代表）『精神医学精神科看護法精神衛生』医学書院.
「診療室アメリカの精神医学」『診断と治療』40(3), 71.
「学業不振児：事例研究その七」『児童心理と精神衛生』2(4), 313-317.
「ヒステリー：事例研究その八」『児童心理と精神衛生』2(5), 392-397,
高木四郎・菅野重道「問題児の発生原因論」中脩三編『異常児』医学書院, 1-26.
『特異児童』医学書院.
「問題の温床：日常生活の精神衛生」『教育じほう』59, 40-42.

1953年

- 「精神薄弱児」『助産婦雑誌』4(1), 21-23.
「児童の精神衛生」『公衆衛生』14(3), 19-23.

1954年

- 「問題児の研究（第I報）：親の態度と適応過程について」『精神衛生研究』2, 1-20.
高木四郎・玉井収介・池田由子・古賀満喜枝・田頭壽子・鈴木育子・今田芳枝「ホスピタリズム
の研究（第I報）：症候論的研究」『精神衛生研究』2, 30-59.
「精神遅滞児」『心理学講座』7(VII), 1-24.
高木四郎・中野佐三編『精神衛生』金子書房.

1955年

- 「家庭における精神衛生の問題」『教育心理』3(7), 437-441.
「精神病の話その1 精神病患者はどこにでもいる」『社会保険』6(6), 28-29.
「精神病の話その2 その原因と行動」『社会保険』6(7), 26-27.
「精神病の話その3 病質者のタイプ」『社会保険』6(8), 26-27.
「神経症の話」『社会保険』6(9), 24-25.
「アメリカの児童精神医学と精神衛生」『精神衛生研究』3, 97-126.

1956年

「性格とその異常 (1) 病床児慰安実技講座」『看護学雑誌』19(1), 15-17.

「性格とその異常 (2)」『看護学雑誌』19(2), 29-31.

「性格とその異常 (3)」『看護学雑誌』19(3), 46-49.

高木四郎・菅野重道・玉井収介・古賀満喜枝・関川みよ子「双生児のパーソナリティ形成に対する身体的ハンディキャップの影響について」内村祐之編『双生児の研究』日本学術振興会, 294-301.

「子供の人間関係をめぐって」『保健婦雑誌』11 (4), 26-31.

「心の病気を治すには」井村恒郎・小石原昭・山口瞳・落藤久義編『新心理学講座第2巻異常と犯罪の心理学』河出書房, 187-191.

「心の衛生」井村恒郎・小石原昭・山口瞳・落藤久義編『新心理学講座第2巻異常と犯罪の心理学』河出書房, 217-221.

「精神衛生の問題とその研究の歴史」『教育心理』4(12), 5-11.

1957年

「精神衛生」斎藤潔編『公衆衛生学』下巻, 金原出版, 681-703.

「附属相談室の概況」『精神衛生研究』5, 3-6.

「児童精神医学」内村祐之・笠松章・島崎敏樹編『精神医学最近の進歩』医歯薬出版, 265-278.

「アメリカの児童精神医学 (その一)」『教育と医学』5(7), 519-524,

「精神衛生」『公衆衛生』21(7), 27-30.

「アメリカの児童精神医学 (その二)」『教育と医学』5(8), “625-630, 637”.

「アメリカの児童精神医学 (その三)」『教育と医学』5(9), 691-697.

「アメリカの児童精神医学 (その四)」『教育と医学』5(10), 765-771.

「小児の精神衛生」『小児保健研究』16(4), 169-170.

「アメリカの児童精神医学 (その五)」『教育と医学』5(11), 860-866.

「アメリカの児童精神医学 (その六)」『教育と医学』5(12), 920-925.

1958年

「アメリカの児童精神医学(完)」『教育と医学』6(1), 47-54.

「児童相談 (その一): 児童精神医学」『教育と医学』6(2), 129-135.

「児童相談 (その二): 児童精神医学」『教育と医学』6(3), 196-202.

「児童相談所の判定指導技術の標準化に関する研究 (第I報) 序論」『精神衛生研究』6, 1-4.

「児童相談所の判定指導技術の標準化に関する研究 (第I報) 国立精神衛生研究所附属精神衛生相談室運営の経験」『精神衛生研究』6, 5-25.

高木四郎・菅野重道・池田由子「児童相談所の判定指導技術の標準化に関する研究 (第I報) 児童相談における精神科医の役割について」『精神衛生研究』6, 26-40.

- 「児童相談所の判定指導技術の標準化に関する研究(第I報) 心理療法が中断する原因について」
『精神衛生研究』6, 41-55.
- 「アメリカの児童精神医学と精神衛生(その二):後編精神衛生(I)」『精神衛生研究』6, 57-71.
- 「児童相談(その三):児童精神医学」『教育と医学』6(4), 293-299.
- 「児童相談(その四):児童精神医学」『教育と医学』6(5), 397-402.
- 高木四郎・菅野重道・玉井収介・池田由子「少年不良化の精神医学的研究」石橋俊実編『異常児』
診断と治療社, 1-11.
- 「児童相談(その五):児童精神医学」『教育と医学』6(6), 450-456.
- 「児童相談(その六):児童精神医学」『教育と医学』6(7), 555-561.
- 「児童相談(その七):児童精神医学」『教育と医学』6(8), 626-632.
- 「児童相談(その八):児童精神医学」『教育と医学』6(9), 738-744.
- 「児童相談(その九):児童精神医学」『教育と医学』6(10), 799-805.
- 「児童相談(その十):児童精神医学」『教育と医学』6(11), 874-881.
- 「小児の精神病」『小児科診療』21(11), 1209-1214.
- 「母と子の精神衛生」『厚生』13(11), 28-29.
- 「臨床チームについて」『精神神経学雑誌』60(13), 1472-1480.
- 「児童相談(その十一):児童精神医学」『教育と医学』6(12), 958-964.

1959年

- 「児童相談(その十二):児童精神医学」『教育と医学』7(1), 55-61.
- 「児童相談(その十三):児童精神医学」『教育と医学』7(2), 124-129.
- 「児童相談(その十四):児童精神医学」『教育と医学』7(3), 223-229.
- 「児童相談(その十五):児童精神医学」『教育と医学』7(4), 308-314.
- 「児童相談(その十六):児童精神医学」『教育と医学』7(5), 386-395.
- 「精神衛生大会から母と子」『保健婦雑誌』15(5), 90-91.
- 「児童相談(その十七):児童精神医学」『教育と医学』7(6), 470-475.
- 「児童相談(その十八):児童精神医学」『教育と医学』7(7), 541-547.
- 「児童相談(その十九):児童精神医学」『教育と医学』7(8), 652-658.
- 「児童相談(その二十):児童精神医学」『教育と医学』7(9), 713-720.
- 「子どもの精神身体症」『精神身体症生活教育シリーズ30号』生活教育の会, 24-29.
- 「児童相談(その二十一・完):児童精神医学」『教育と医学』7(10), 783-790.
- 笠松章・五十嵐衡・竹山恒寿・高木四郎・加藤正明「一般診療に必要な精神科の知識」『日本医師会雑誌』42(12), 837-850.

1960年

- 『児童精神医学総論:児童相談の理論と実際』慶応通信.
- 「児童相談の諸問題(その一):児童精神医学・各論」『教育と医学』8(2), 116-122.

- 「わが国児童精神医学の将来」『児童精神医学とその近接領域』1(1), 2-12.
- 「児童相談の諸問題 (その二) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(3), 236-242.
- 「児童相談の諸問題 (その三) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(4), 341-347.
- 「児童相談の諸問題 (その四) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(5), 419-425.
- 「児童相談の諸問題 (その五) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(6), 498-506.
- 「児童相談の諸問題 (その六) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(7), 584-590.
- 「国立精神衛生研究所相談室の状況」『児童精神医学とその近接領域』1(3), 282-
- 「児童相談の諸問題 (その七) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(9), 766-773.
- 「国立精神衛生研究所相談室の状況」『児童精神医学とその近接領域』1(3), 282-287.
- [書評] 「Rodriguez, A. Rodriguez, M & Eisenberg, L.: The Outcome of School Phobia」『児童精神医学とその近接領域』1(3), 106.
- [書評] 「Agras, S.: The Relationship of School Phobia to Childhood Depression」『児童精神医学とその近接領域』1(3), 107.
- 「児童相談の諸問題 (その八) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(10), 853-859.
- 「児童精神医学について」『小児科臨床』13(10), 1007-1014.
- 「児童相談の諸問題 (その九) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(11), 915-929.
- 「児童相談の諸問題 (その十) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』8(12), 1018-1023.
- [座談会] 高木四郎・権平俊子・八木由夫・鷺見たえ子・牧田清志・森脇要・玉井収介・平井信義
「児童精神医学の訓練について」『児童精神医学とその近接領域』1(4), 418-428.
- [書評] 「Robinson, J. Franklin, M.D.: Current Status of Child Psychiatry」『児童精神医学とその近接領域』1(4), 431.

1961 年

- 「児童相談の諸問題 (その十一) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』9(1), 36-41.
- 「児童相談の諸問題 (その十二) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』9(2), 144-150.
- 「児童相談の諸問題 (その十三) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』9(3), 214-220.
- [所感] 「パネル・ディスカッションを司会して」『児童精神医学とその近接領域』2(1), 114-116.
- 「児童相談の諸問題 (その十四) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』9(4), 305-310.
- 「児童相談の諸問題 (その十五) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』9(5), 380-386.
- [座談会] 玉井収介・大見川正治・高橋恭子・田頭寿子・谷口幸輔・鷺見たえ子・高木四郎・加藤伴子
「スーパービジョンについて」『児童精神医学とその近接領域』2(2), 197-91.

1962 年

- 「児童相談の諸問題 (その十六) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』10(1), 56-62.
- 「児童相談の諸問題 (その十七) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』10(2), 165-171.
- 「児童相談の諸問題 (その十八) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』10(3), 229-235.
- 「児童相談の諸問題 (その十九) : 児童精神医学・各論」『教育と医学』10(4), 354-361.

高木四郎・今田芳枝「漏糞の一治験例」『精神衛生研究』10, 64-71.

「児童相談の諸問題（その二十）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(5), 419-427.

「児童相談の諸問題（その二十一）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(6), 529-534.

「児童相談の諸問題（その二十二）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(7), “603-609, 625”.

「児童相談の諸問題（その二十三）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(8), 718-724.

「児童相談の諸問題（その二十四）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(9), 784-790.

「児童相談の諸問題（その二十五）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(10), 880-886.

「児童相談の諸問題（その二十六）：児童精神医学・各論」『教育と医学』10(12), 1054-1062.

1963年

「児童相談の諸問題（その二十七）：児童精神医学・各論」『教育と医学』教育と医学 11(1), 46-53.

「児童相談の諸問題（その二十八・完）：児童精神医学・各論」『教育と医学』11(2), 148-156.

「精神衛生（その一）」『教育と医学』11(4), 341-347.

「小児神経症」『小児科診療』26(4), 405-409.

「精神衛生（その二）」『教育と医学』11(5), 440-447.

「学校」勝沼晴男・芦沢正見・小泉明・田中恒男編『健康管理シリーズ 11 精神衛生』医歯薬出版, 63-126.

「精神衛生（その三）」『教育と医学』11(7), 600-606.

「精神衛生（その四）」『教育と医学』11(8), 698-704.

「精神衛生（その五）」『教育と医学』11(9), 812-818.

「精神衛生（その六）」『教育と医学』11(10), 913-918.

「精神衛生（その七）」『教育と医学』11(11), 1011-1017.

1964年

『児童精神医学各論—児童相談の諸問題』慶應通信.

「精神衛生（その八）」『教育と医学』12(5), 445-451.

「精神衛生（その九）」『教育と医学』12(6), 546-551.

「精神衛生（その一〇）」『教育と医学』12(7), 621-627.

「脳神経検査法」『小児科診療』27(7), 61-63.

「精神衛生（その一一）」『教育と医学』12(8), 703-708.

「精神衛生（その一二）」『教育と医学』12(9), 817-823.

「精神衛生（その一三）」『教育と医学』12(10), 900-905.

「精神衛生（その一四）」『教育と医学』12(11), 1010-1016.

1965年

『精神医学・臨床心理学・ケースワーク：臨床チーム』慶應通信.

- 「精神衛生（その一五）」『教育と医学』13(1), 66-71.
「精神衛生（その一六）」『教育と医学』13(2), “182-188, 138”.
「精神衛生（その一七）」『教育と医学』13(3), 270-275.
「精神衛生（その一八）」『教育と医学』13(4), 377-383.
「精神衛生（その一九）」『教育と医学』13(5), “448-453, 432”.
「精神衛生（その二〇）」『教育と医学』13(6), 538-544.
「精神衛生（その二一）」『教育と医学』13(7), 640-646.
「精神衛生（その二二）」『教育と医学』13(10), 932-938.
「精神衛生（その二三）」『教育と医学』13(11), 1068-1074.
「精神衛生（その二四）」『教育と医学』13(12), 1166-1172.

1966 年

- 「精神衛生（その二五）」『教育と医学』14(1), 64-70
「精神衛生（その二六）」『教育と医学』14(2), 158-164.
『問題児』日本経済新聞社.
「精神衛生（その二七）」『教育と医学』14(3), 271-278.
「精神衛生（その二八）」『教育と医学』14(4), 364-371.
「精神衛生（その二九・完）」『教育と医学』14(6), 562-571.

1967 年

- 『最新精神衛生：その理論と応用』慶應通信.

1968 年

- 「児童相談所について菅谷克彦氏に答えて」『児童精神医学とその近接領域』9(2), 69-77.

その他・覚書

『教室における精神衛生』国土社が『学校精神衛生』（1951 年）の奥付に「最近の主要著作」として挙げられているが、存在を確認できなかった。高木四郎にゆかりのある国立精神・神経医療研究センター図書館にも所蔵がないことを確認した。

『児童心理と精神衛生』に 1951 年から 1952 年にかけて連載された「事例研究」について、2 巻 5 号の次号予告に「事例研究：その九」とあるが、その九以降の記事が確認できなかった。高木は 1953 年の秋から WHO のフェローとして米国留学をしているので、もしかしたらそれと関係があるかもしれない。